

# 令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

## 兵庫県

### （地域における現状・課題）

- ・休日の運動部活動の段階的な地域移行に対して理解している教員がいる反面、依然として部活動が学校の生徒指導において重要な位置づけであると感じている教員も多く、意識改革の必要性を感じている。
- ・生徒数の減少等により、運動部活動の維持が困難な地域もあり、学校・地域・家庭が連携し、持続可能な運動部活動推進のための制度設計を行う。そのために、各市町への丁寧な説明を実施し、関係各位の意識改革を図る。

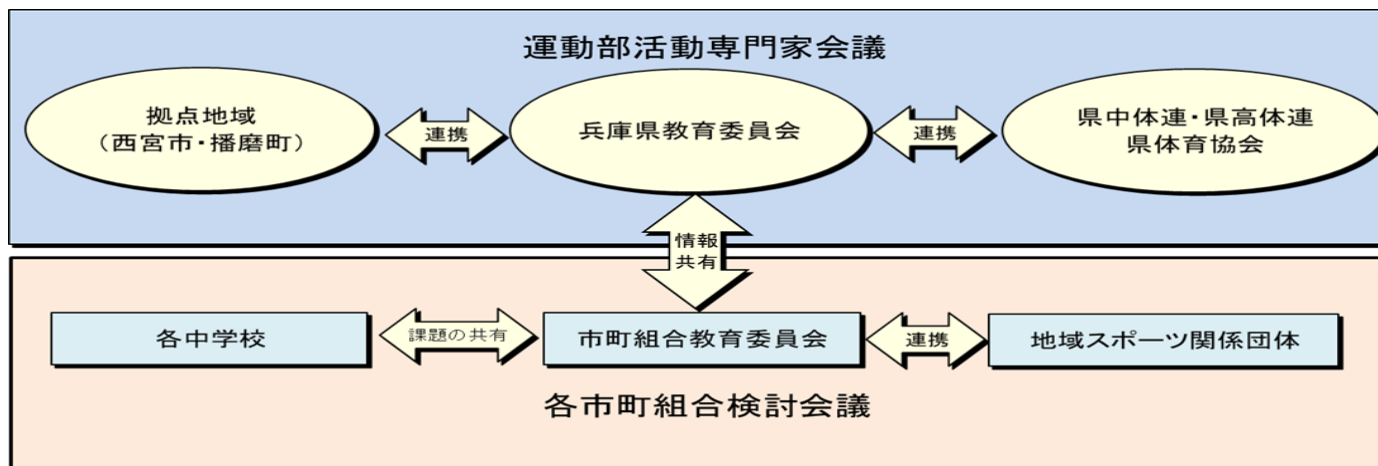
### （地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

- ・全ての市町において地域移行担当窓口を設置
- ・受入れ団体等へのアンケートによる、受入れ可能・検討している団体の情報提供
- ・県スポーツ協会との連携による、各関係団体への地域移行の周知や協力依頼要請
- ・予算措置に関する情報をオンライン会議等でいち早く市町へ情報提供
- ・運動部専門家会議でモデル事業等の検証等を行い、課題解決に向けた検討
- ・兼職兼業等の制度設計や運用等の整理
- ・ガイドラインの策定にむけた教育委員会内での検討を開始

### （実践研究の成果）

- ・市町担当者説明会において、市町担当窓口の設置を求め、全ての市町において地域移行担当窓口を設置
- ・市町説明会等により、次年度モデル事業等を検討する市町が35%、実態調査や説明会の実施による準備を始める市町が28%、協議会等で方向性を検討する市町が37%となり、全ての市町が地域移行に向け実情に応じた取組を検討

### （運営体制図）



# 令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

## 西宮市

### （地域における現状・課題）

本市は人口48万人を超える中核市ではあるが、人口密集地とそうでない地域があり、市内に合計20校ある中学校・義務教育学校の生徒数に大きな差がある。生徒数推計によれば、5年後には中学校・義務教育学校全体で約300人が減少すると予測されているが、学校により約80人減少する学校もあれば、約40人増加する学校もある。学校規模も870人を超える学校から100人をわずかに超える学校もあり、学校間で生徒数の差が開いている。こうした学校規模の差は、子供たちの部活動の選択肢や活動環境にも影響を与えることとなる。特に小規模校においては、今後の部活動を持続可能なものにしていくための改革が喫緊の課題と認識している。

### （地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：SC21西宮浜、西宮浜アスレチック教室

活動場所：西宮市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校

指導者：地域指導者、部活動指導員、兼職兼業による教員

移動手段：徒歩

責任主体：西宮市教育委員会

活動種目：バドミントン、卓球、陸上競技

会費等：SC21西宮浜（入会金1,000円/年、月会費500円/月※バドミントン、200円/月※卓球）、西宮浜アスレチック教室（月会費200円/月）

保険：生徒 800円/年、指導者 1,850円/年（スポーツ安全協会）

### （実践研究の成果）

- ・地域団体が学校部活動を受け入れるうえでの課題の整理ができた。（地域スポーツ団体と学校部活動との活動目的や方針等の相違、指導者や活動団体の責任の所在、現状の部活動や部活動ガイドラインとの整合性）
- ・休日の部活動を試行的に地域移行として活動したことについて、生徒80%、保護者71%、教員78%、指導者90%から「良かった」との回答を得た。
- ・今回の活動において顧問教員の活動への平均参加率は約62%に留めることができた。希望により兼職兼業で休日の指導に携わった教員も休日が取りやすくなり、心身ともにゆとりを持って活動することができた。

### （運営体制図）

#### 西宮市 部活動 地域移行 推進協議会

- ※R4準備委員会  
R5設置
- ・全体計画の協議
- ・課題整理
- ・スケジュール策定

#### 連携組織・団体

西宮市立中学校・義務教育  
学校部活動推進委員会  
西宮市スポーツ推進課  
西宮市中学校会  
西宮市中学校体育連盟  
西宮市SC21連絡協議会  
西宮市体育協会  
西宮市スポーツセンター など

#### 西宮浜地区 地域連携校型部活動 推進委員会

- ・運営委員会の開催
- ・指導者研修会の実施

西宮市教育委員会

西宮市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校

地域スポーツ団体  
への入会(参加)



一般の部への参加や  
中学生の部の新設

SC21西宮浜（バドミントン、卓球）

西宮浜アスレチック教室（陸上競技バドミントン、卓球）

・事業設計

・指導内容の連携  
・生徒に関する連携

・地域スポーツ団体の運営

# 令和4年度地域運動部活動推進事業 休日の段階的な地域移行に関する実践研究 成果報告書（概要）

## 播磨町

### （地域における現状・課題）

部活指導を希望する教員が減少傾向にあることや、種目によっては、技術指導ができない部活動もあり、存続が厳しい状況になっている部活動がある。また、入部者が減少している種目もあり、生徒は限られた種目での活動を選択している。本町では総合型地域スポーツクラブがNPO法人を取得し、地域のスポーツ協会や活動団体とともにスポーツ活動の一元化を目指してきた。そのような中、多種多様な種目が運営できるよう指導者の人材確保と登録バンク制の構築が喫緊の課題である。

### （地域移行の推進に向けた体制整備の取組概要）

運営主体：NPO法人スポーツクラブ21はりま

活動場所：播磨中学校 武道場、体育館 播磨南中学校 運動場

指導者：総合型地域スポーツクラブの指導者、教師の兼職兼業

移動手段：徒歩、自転車

責任主体：播磨町教育委員会 地域学校教育課

活動種目：剣道、卓球、陸上競技、サッカー、ソフトテニス

会費等：なし

保険：800円（スポーツ安全保険）

### （実践研究の成果）

・休日の平均活動日数 169日／5部活動 = 33.8日    ・地域指導者 138日／5人 = 27.6日    ・顧問(教師) 191日／9人 = 21.2日

卓球部の顧問1名は、休日の部活動には基本的に参加していない。また、他の顧問（教諭）についても、地域指導者に休日の部活動を任せるなど、適度に休むことができている。専門性のないサッカー部顧問にとっては、地域指導者が専門的な指導を行うことで精神的な負担が軽減されている。

### （運営体制図）

